

津地方を限った場合、必ずしも一致していない。それに降水量は、測定の絶対値で大体正しいものは近年の記録が多く、大洪水といっても、特に古いものは、その大きさは概念的で、明確を欠く点が多い。次は洪水は一日の最大雨量で突発的に起ることもあるが、多くは二日乃至三日の連続雨量、それに永い梅雨季が前にあるとか、台風時のように暴風をとまらぬ場合に洪水度を大にする。

東北地方は高緯度で、裏日本の積雪量は大であるが、梅雨、夏の季節風からはそれ勝ちで、台風も多くは弱まり、西南日本のような著大な日雨量はみられないようである。会津盆地斜面は、大正十四年以來の最大日雨量は昭和三十三年九月二十九日南倉沢の二四五・〇ミリで、それ以上のは計測されていない。それであるから東北地方の最大日雨量は恐れたものでないとはいい得ない。福島県下でも、昭和四年五月二十三日に原町市で四五五・〇ミリの計測がなされている。

しかし洪水は日雨量がやや低くとも、二、三日の連続雨量として集計されてもたらず場合が多い。台風も二日以上にわたることがないではないが、連続雨量は、梅雨明け頃に、大地が連日の雨で熟している時にやっつき、被害を大にすることがある。会津地方では、日雨量のあまり大きな記録はないが、連続雨量では可成のものがある。連続年最大雨量を会津地方でいくつか順位をつけてみると、昭和十六年七月二十一日から翌二十二日にわたる連続雪量大川支流の鶴沼川上流湯本で三〇九・九ミリが最高であったが、昭和三十一年七月十四、十五、十六日の三日間の連続は会津高田町で三一九・七ミリが測られている。会津地方でも連続雨量の場合三〇〇ミリを越すことがみえるのは、むしろ驚異的といってもよい。田島では昭和十六年七月二十一、二日の連続雨量二五八・五ミリが最高であるし、会津若松では昭和三十一年七月十五日より十六日に至る一八四・二ミリが最高である。これらの多くの降雨量統計をみると、絶対雨量は、会津盆地底では必ずしも著大ではない。しかも洪水